

# 研究員 の眼

## 2020年の暦など 祝日と太陽・月の様子

保険研究部 主任研究員 安井 義浩  
(03)3512-1833 [yyasui@nli-research.co.jp](mailto:yyasui@nli-research.co.jp)

2020年版の理科年表が手に入ったので、暦の部分だけでも見てみよう。2020年の祝日は以下の通りとなっている。連休が気になる読者諸兄はとくにチェック済みのこととは思うが、念のため。

祝日	2020年では		(参考) 祝日法の定め
元日	1月1日(水)		1月1日
成人の日	1月13日(月)		1月第2月曜日
建国記念の日	2月11日(火)		政令で定める日
天皇誕生日	2月23日(日)	2020年に初登場	2月23日
(休日)	2月24日(月)		(振替休日)
春分の日	3月20日(金)		春分日
昭和の日	4月29日(水)		4月29日
憲法記念日	5月3日(日)		5月3日
みどりの日	5月4日(月)		5月4日
こどもの日	5月5日(火)		5月5日
(休日)	5月6日(水)		(振替休日)
海の日	7月23日(木)	2020は特例(東京オリンピック開会式の前日)	7月第3月曜日
スポーツの日	7月24日(金)	2020は特例(同上 当日)、体育の日を改定	10月第2月曜日
山の日	8月10日(月)	2020は特例(同上 閉会式翌日)	8月11日
敬老の日	9月21日(月)		9月第3月曜日
秋分の日	9月22日(火)		秋分日
文化の日	11月3日(火)		11月3日
勤労感謝の日	11月23日(月)		11月23日

次に、二十四節気、雑節は以下の通り。実際には時刻まで決まっているが省略。

二十四節気

	2020年は	太陽黄経(度)	説明
小寒 (しょうかん)	1月6日	285	寒の入りで、寒気がましてくる
大寒 (だいかん)	1月20日	300	冷気が極まって、最も寒さがつのる
立春 (りっしゅん)	2月4日	315	寒さも峠をこえ、春の気配が感じられる
雨水 (うすい)	2月19日	330	陽気がよくなり、雪や氷が溶けて水になり、雪が雨に変わる
啓蟄 (けいちつ)	3月5日	345	冬ごもりしていた地中の虫がはい出てくる
春分 (しゅんぶん)	3月20日	0	太陽が真東から昇って真西に沈み、昼夜がほぼ等しくなる
清明 (せいめい)	4月4日	15	すべてのものが生き生きとして、清らかに見える
穀雨 (こくう)	4月19日	30	穀物をうるおす春雨が降る
立夏 (りっか)	5月5日	45	夏の気配が感じられる
小満 (しょうまん)	5月20日	60	すべてのものがしだいにのびて天地に満ち始める
芒種 (ぼうしゅ)	6月5日	75	稲や麦などの(芒のある)穀物を植える
夏至 (げし)	6月21日	90	昼の長さが最も長くなる
小暑 (しょうしょ)	7月7日	105	暑気に入り梅雨のあけるころ
大暑 (たいしょ)	7月22日	120	夏の暑さがもっとも極まるころ
立秋 (りっしゅう)	8月7日	135	秋の気配が感じられる
処暑 (しょしょ)	8月23日	150	暑さがおさまるころ
白露 (はくろ)	9月7日	165	しらつゆが草に宿る
秋分 (しゅうぶん)	9月22日	180	秋の彼岸の中日、昼夜がほぼ等しくなる
寒露 (かんろ)	10月8日	195	秋が深まり野草に冷たい露がむすぶ
霜降 (そうこう)	10月23日	210	霜が降りるころ
立冬 (りっとう)	11月7日	225	冬の気配が感じられる
小雪 (しょうせつ)	11月22日	240	寒くなって雨が雪になる
大雪 (たいせつ)	12月7日	255	雪がいよいよ降りつもってくる
冬至 (とうじ)	12月21日	270	昼が一年中で一番短くなる

2020年の日付は理科年表2020より。説明は国立天文台HPより

雑節

	2020年は	太陽黄経(度)	説明
土用 (どよう)	1月18日	297	
節分 (せつぶん)	2月3日		立春の前日
彼岸 (ひがん)	3月17日		春分日の3日前
土用	4月16日	27	
八十八夜 (はちじゅうはちや)	5月1日		立春から88日め
入梅 (にゅうばい)	6月10日	80	
半夏生 (はんげしょう)	7月1日	100	
土用	7月19日	117	
二百十日 (にひゃくとうか)	8月31日		立春から210日め
彼岸	9月19日		秋分日の3日前
土用	10月20日	207	

理科年表2020より筆者作成、土用と彼岸は期間を表すので、その初日(入り)を記載

太陽と月の動きに関する情報。

太陽

		東京における	
		日出	日入
元日	1月1日	6時50分	16時38分
春分の日	3月20日	5時45分	17時53分
夏至	6月21日	4時26分	19時00分
秋分の日	9月22日	5時29分	17時38分
冬至	12月21日	6時47分	16時32分

夏至と冬至とでは日の出、日の入とも 2 時間以上違うことにあらためて驚きを覚える。(なるほど冬は、意外に早い時間でも、ゴルフのボールが見えなくなるわけだ。)

また、筆者は年末年始に岡山に帰省するが、岡山の日入は東京よりも 30 分程度遅い時間なので、夕方はいつまでも明るい印象である。こうした全国主要都市の日出・日入時刻のデータ記載もあるがここでは省略。

月

(日)

	上弦	望(満月)	下弦	朔(新月)	上弦	望(満月)
						
1 月	3	11	17	25	-	-
2 月	2	9	16	24	-	-
3 月	3	10	16	24	-	-
4 月	1	8	15	23	-	-
5 月	1	7	14	23	30	-
6 月	-	6	13	21(金環日食)	28	-
7 月	-	5	13	21	27	-
8 月	-	4	12	19	26	-
9 月	-	2	10	17	24	-
10 月	-	2	10	17	23	31
11 月	-	-	8	15	22	30
12 月	-	-	8	※15	22	30

※ 皆既日食 (日本ではみられない)

10 月には満月が 2 回ある。天文学の話からははずれるが、これを一般にブルームーン (2 回目の満月をそう呼ぶと限定するわけでもないらしい) というが、こうした表を見ると、月 1 回のことが普通で (なにせ月だし)、比較的珍しいこととわかるかもしれない。また月初・月末ギリギリの話なので、世界各地の時刻によって、どの月がブルームーンか微妙に異なることもある。

### 【日食】

日食については、2020 年のことを言う前に、まずは今年 (2019 年) 12 月 26 日、14 時頃から金環日食 (部分食) が日本でも見られることを挙げておこう。ただし九州など南の地域では始めから終わりまで見られるが、北に行くと日没のほうが先になり、欠けたまま沈む予定 (予定というのも変だが)。

さて、2020年は、6月21日に金環日食（部分食）が見られる。時刻は16～18時で、東京では最大に欠けても半分程度だが、那覇あたりでは8割くらい欠けて見えるとのこと。

日本で、次に皆既日食を見られるのは、2035年9月2日だそうで、ずいぶん先の話になる。

### 【月食】

月食は2020年にはない。前にあったのは2019年7月16日だったが、部分食であまり欠けなかったのと、欠けたままの月が沈んだとのことで印象は薄かったかもしれない（筆者も覚えていない）。次回は2021年5月26日まで待たなければならないようだ。

いずれにしても、こうした天体ショーの時には、天気がよければいいのだが。